2022 年度（令和 4 年度）

事業報告書 / 活動計算書

2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日

第 4 回 通常総会（2023 年 6 月 17 日）承認

ARC　NPO 法人 アルペなんみんセンター

〒 248-0001 神奈川県鎌倉市十二所 80 イエズス会日本殉教者修道院

Tel 0467-55-5422　Fax 0467-55-5423　https://arrupe-refugee.jp

法人設立日　2020 年 2 月 5 日

NPO 法人アルペなんみんセンター

2022 年度 事業報告書

（2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日）

はじめに

世界で避難を強いられた人々の数は、ミャンマー、アフガニスタン等の紛争に加え、ウクライナ危機で急増し、初めて1億人を超えた。日本に保護を求める者も増加し、2022 年に日本で難民と認定された人は過去最大の 202 人となり、また不認定ながら人道的な配慮を理由に在留を認められる件数も増えている。しかし、依然として十分に保護を受けられない難民が大多数で、路上生活となる人も多い。こうした中、難民認定申請者を受け入れる難民シェルターとして設立された当センターでは、これまでに幼い子どもを抱える家族・母子世帯を含む 20 カ国 52 人を受け入れてきた。

難民・避難民に寄り添う取り組みは、地域社会に受け入れられ、様々な交流を通じた相互理解が進んでいる。食事づくり、役所等への同行などを担う住民ボランティアも増え、異なる背景・属性を抱えた人々と地域住民がともに喜び、支えあうコミュニティとなっている。共生社会の一員である難民・避難民との交流や協働の中で、痛みや苦悩を分かち合い、互いに励ましあい、喜びを分かち合う経験をより多くの方にしていただくことは、包摂的な共生社会の構築の一助となる。

2022 年2月のロシアのウクライナ侵攻によって、2000 万人以上の難民が発生した。日本にも、2,218 人（2023 年 5 月 10 日現在）が避難してきている。当センターでも 2022 年 4 月 16 日から 1 組の夫妻を受け入れた。その後、住宅に窮するウクライナ人 9 人を受け入れた。

来日したウクライナ避難者が抱えるニーズは多岐にわたり、現地で受けた心身への負荷からの回復、生活基盤整備、日本社会への順応に向けたつながり支援、語学支援のほか、生活費・医療費等の経済的支援などがある。これまでに在留資格取得、住民登録等の行政手続きを済ませ、医療支援、日本語学習支援、地域交流などを実施した。

2022 年 11 月、神奈川県弁護士会人権賞を受賞した。受賞理由として「スタッフが常駐のもと難民が安心して共同生活を送ることができるシェルターを提供しており、このような施設は日本ではアルペなんみんセンターのみである」と高い評価を受けた。今後とも、受け入れた難民、避難民一人ひとりの人生に寄り添った活動を続けていく所存である。

1　難民への定住支援事業

（1）緊急シェルターの提供

緊急シェルターの提供　2022 年度実績　実人数 32 人　滞在日数　7,698 泊
2021 年度実績　実人数 20 人　滞在日数　3,519 泊
2020 年度実績　実人数 15 人　滞在日数　1,857 泊

＊ 2022 年度　新規入所　21 人（2020 年から継続 5 人、2021 年度から継続 6 人）
＊ 平均滞在日数　240 日間（2020 年からの継続含む）
＊ 最長滞在日数　901 日間（2020 年からの継続含む）
＊ 最短滞在日数　4 日間
＊ 2023 年 3 月 31 日現在入居者　6 カ国　15 名

難民が安全で安心できる住居の提供

施設内には 30 の個室がある。入居者の通信手段を確保するため、スマートフォンを提供し、施設内で常時 Wi-Fi が接続可能。

食事の提供

1 日 3 食の温かい食事を提供した。調理担当スタッフを中心に多くの調理ボランティアに支えられている。支援者、近隣の農家や青果店、フードバンク、鎌倉市、鎌倉市社会福祉協議会などからも食材提供を受けている。

衣料・日用品

地域の市民グループや個人から中古・新品の衣料や日用品の寄贈を受けている。寄贈品の整理や配布は地域のボランティアに支えられている。

（2）医療の提供

入居者の多くは、在留資格の関係で健康保険に加入できず、医療費は全額自己負担。必要に応じて地域の医療機関での診療にスタッフが同行するなどのサポートを行っている。医療費は、当センターに寄せられる寄付で対応している。

医師の往診、医療相談会

週 1 回、地元の医師がボランティアで往診してくださっている。

また、月 1 回、2 名の医師と 1 名の鍼灸師による医療相談、マッサージを実施した。

脳梗塞で倒れた入居者の緊急支援

2022 年 9 月、入居者が脳梗塞で救急搬送された。無保険で高額な医療費が予想されたため、広く支援を呼びかけた。個人 / 団体から 214 件 6,171,555 円の寄付が寄せられた。済生会東神奈川リハビリテーション病院、済生会神奈川県病院で 3 ヶ月間リハビリテーション支援をいただき、支え歩きができるまでに回復した。本人と家族の希望で 2023 年 1 月に帰国した。

（3）日本語学習支援

日本における将来的な自立のため、入居者のニーズに応じて日本語の個人レッスンを実施した。

（4）アルペファーム（農作業）

敷地内の畑で、毎週土曜日に農作業を行った。近隣住民が中心となり、入居者と交流しながら野菜を育てた。作業には子どもたちも参加し、ふれあいの場となった。春と秋にはみんなで収穫祭を行った。

（5）地域のイベントへの参加

- 2022/05　第 54 回慈善茶会（鎌倉青年会議所主催）
- 2022/05　みんなで鎌倉平和パレード
- 2022/06　観音様のつどい（世界難民の日）
- 2022/09　ピースデー鎌倉
- 2022/10　カトリック横浜教区一粒会大会
- 2022/10　第 64 回鎌倉市民合唱祭
- 2022/11　かまくら国際交流フェスティバル
- 2023/01　アムネスティ鎌倉グループ映画会

（6）近隣の居場所プログラム

月一回開催される近隣の地域食堂「ふらっとカフェ in 二階堂」に定期的に参加した。

（7）ウクライナ避難民支援

ウクライナでロシアによる軍事行動が 2022 年 2 月 24 日に開始され、多くの国内避難民、難民が発生した。4 月 5 日にウクライナからの避難民 20 人を乗せた政府専用機が日本に到着した。

4 月 9 日に鎌倉在住のウクライナ人から、ウクライナから両親を避難させたいと当センターに相談があり、様々な方々の支援でわずか 9 日間で来日することができた。

7 月より公益財団法人かながわ国際交流財団のかながわ民際協力基金・緊急支援事業「ウクライナ避難者への緊急支援・定住支援」による助成を受けながら、下記の支援を行った。

- シェルター提供（住まい、食事、衣料、生活必要物資支援）
- 在留資格取得、住民登録、健康保険等手続き
- 銀行口座開設
- 医療支援（精神的な支援も含む）
- 日本語学習
- 子どもの教育支援
- 生活順応支援（ゴミ出し他、自治会・近所づきあい、生活ルール等）
- 地域コミュニティとの交流
- 同国人との交流、イベント開催
- 就労支援
- 住宅探し（公営住宅、UR、民間賃貸住宅等）
- 引っ越し手続き等
- 通訳同行支援
- 身元保証人の提供

全国のラーメンファンから聖地と呼ばれている神奈川県湯河原町の名店「らぁ麺 飯田商店」が出張出店！

2022/12 クリスマス交流会

2022/12 クリスマス交流会

（8）アフガニスタン難民支援

アフガニスタンで再びイスラム主義勢力タリバンが実権を握った 2021 年 8 月以来、混乱と迫害から逃れるため、800 人以上のアフガニスタン人が日本に逃れてきた。関係諸団体と連携をとりながら、必要な支援を行った。

（9）小金井センター開設準備

カトリック聖霊会から小金井聖霊修道院（東京都小金井市）の活用についての打診があり、新規シェルターの検討を進めた。

２　情報発信事業

（１）国際理解教育事業（なんみんセミナー、オープンデー）

なんみんセミナー（オンラインを含む）を全国の小中高、大学、近隣施設で実施した。また、施設見学や難民との交流の機会を提供することを目的にオープンデーを開催した。

２０２２年度　実績	難民セミナー	５５回開催	３，２２５人	参加
	オープンデー	１７回開催	２３０人	参加
	合計	７２回開催	３，４５５人	参加
２０２１年度　実績	難民セミナー	２０回開催	２，４６１人	参加
	オープンデー	３回開催	３６人	参加
	合計	２３回開催	２，４９７人	参加
２０２０年度　実績	難民セミナー	３回開催	５９人	参加

2022/6　世界難民の日　大船観音

2022/10　鎌倉市内の小学校の総合学習授業

2022/10　医療ソーシャルワーカーの研修会

2023/3　JCAP 研修会

（2）ニュースレター、ホームページ、SNS 等での情報発信

1）ニュースレター「アルペ通信」

当団体の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペ通信（A4 4ページ）」を発行、配布した。

第4号（2022年 8月、11,500部）

第5号（2022年12月、26,500部）

2）ニュースレター「アルペだより」

当団体の日常の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペだより（A4 1ページ）」を発行した。

No 3（2022年5月）、No 4（2022年 7月）

No 5（2022年9月）、No 6（2022年11月）

No 7（2023年2月）

3）ホームページ

当団体のホームページ にて活動について紹介した。また、イベントの募集と報告を随時行った。

4）インスタグラム

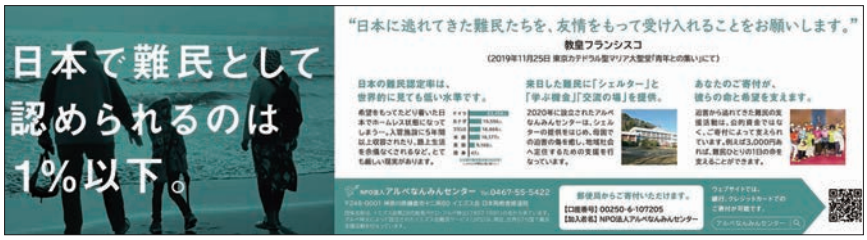
難民の置かれている状況等の情報を発信した。

5）SNS 配信、YouTube チャンネル

Facebook ページにて当団体の活動の最新情報を発信した。YouTube「アルペチャンネル」で動画を配信した。

6）パンフレット　活動紹介パンフレットをリニューアルし、44,000部発行した。

7）新聞広告　カトリック新聞に広告を掲載した。



（4）メディア掲載

多くのメディアから取材を受け、難民の状況や当センターの活動を紹介する機会を得られた。

【新聞　１３件】

鎌倉の「シェルター」ウクライナ避難民受け入れ	2022/05/05 神奈川新聞
ウクライナの「優しい味」に笑顔 郷土料理で平和に思いをはせ	2022/05/24 東京新聞
戸惑いつつ懸命に 神奈川で新生活を送るウクライナ避難民	2022/05/25 朝日新聞
難民認定し「居場所」をください	2022/06/19 朝日中高生新聞
働きたくても　かべ	2022/06/19 朝日小学生新聞
私の争点、聞いて　参院選神奈川選挙区	2022/06/23 朝日新聞
難民と被災地映画を支援	2022/06/24 タウンニュース
ウクライナ避難民「平和に！」	2022/07/01 タウンニュース
避難民、飯田商店のラーメンに「おいしい」 鎌倉で交流会	2022/11/17 神奈川新聞
アルペなんみんセンター神奈川県弁護士会人権賞を受賞	2022/11/27 カトリック新聞
【ひとすじ】人生の選択をサポート　鎌倉で難民支援に奔走	2023/01/26 神奈川新聞
「難民」支援、草の根で広がる	2023/02/01 日本経済新聞
難民は恩恵もたらす存在「入管法を考える」支援の現場から	2023/03/31 クリスチャン新聞

【テレビ　５件】

LIve ニュース鎌倉「アルペなんみんセンター紹介」	2022/04/08 J:COM 鎌倉
急増「デジタル地域通貨」住民同士の交流の機会が飛躍的に UP	2022/05/04 テレビ朝日
鎌倉の大仏で知られる高徳院で茶会 収益は人道支援に	2022/05/15 NHK ニュース
鎌倉大仏の寺で世界平和を願って茶会	2022/05/19 NHK ニュース
ＵＮＨＣＲ関係者が鎌倉市訪問 難民など支援の施設を視察	2023/03/25 NHK ニュース

【ネットニュース　６件】

「自分の人生を生きてほしい」―行き場のない難民の支援に奔走する、ある女子大生の青春	2022/08/18 nippon.com
幸せとは、人とつながり生きること。日本にいる難民たちの「働きたい」という切実さ	2022/11/28 Yahoo! SDGs
『ボーダー 移民と難民』私たちの内なる境界を考える	2022/12/14 HONZ
世界各国からの難民が「日本一のラーメン」に舌鼓！【前編】	2022/12/17 Do well by doing good
難民支援に乗り出した「らぁ麺 飯田商店」店主が見据える SDGs【後編】	2022/12/23 Do well by doing good
Grassroots refugee support grows in Japan amid tough asylum policy	2023/02/06 NIKKEI Asia

【雑誌　２件】

今、難民問題に向き合う	2022/06	機関誌フィランソロピー
ウクライナ「避難民」受入れを難民受け入れのスタンダードに	2022/10	情報誌 M ネット

【ラジオ　１件】

世界難民の日に寄せて	2022/06	鎌倉 FM

東京新聞　2022年(令和4年)5月24日(火曜日)　電子版 横神

ウクライナ「優しい味」に笑顔

郷土料理で平和に思いはせ

日本の人にウクライナの味を知ってほしい。鎌倉市で二十二日、ロシアによる侵攻を受けて市内に避難しているウクライナ女性が作った郷土料理を楽しむイベントが開かれた。女性は故郷で料理人として働いており、この日は母国がボルシチやピロシキなどを振る舞った。参加した市民らは、優しい味で「日本への恩に報いたい」とウクライナで失われた穏やかな市民生活に思いをはせた。（石原真樹）

❶ボルシチを味見する女性（ナターリヤさん提供）
❷鶏肉とポルシチやピロシキ＝いずれも鎌倉市で

鎌倉の避難女性 振る舞う

女性はナターリヤ・マーモーチカさん(六〇)。ポルシチやピロシキ、チキンのオレンジソースなどを生活部のスタッフが市内で、次々に作っている。

ナターリヤさんは料理人として住民たちとともに鎌倉に来た。先月から、難民支援に取り組む市内の特定非営利活動法人(NPO法人)「アルベなんみんセンター」が運営する市内のシェルターは、鎌倉駅のバスセンターや新クマイモモ通っ出ルシチやピロシキ、チキンオレンジ風のチキンソースを用いた料理を作った。長女で東京都足立区に暮らすミハイル・オクリーナさんがこの日、日本語が話せないナターリヤさんに代わって「ジャクジョー（ありがとう）」の簡単なウクライナ語を紹介した。

一日は料理が大好き。食べるおいしい食べてもらえるとうれしいそうにエヤクーナさん。ナターリヤさんは、自分がウクライナに残した者も鎌倉の人たちがウクライナのことを覚えていてくれるとうれしいと話しているという。

参加した市民らは、ロシアのウクライナ侵攻を支援するNPO法人ウクライナ避難民の支援に取り組み、ナターリヤさんの支援に取り組んでいる。スタッフの長川りすみさんは、ウクライナの大きなニュースの後に、ほかにも日本に来れてよかったと思ってほしい」と複雑な心境を明かした。

2022/05 東京新聞

7　ニュース　2022年(令和4年)6月19日　朝日中高生新聞　(第三種郵便物認可)

20日は「世界難民の日」

日本は受け入れに消極的

難民認定し「居場所」をください

6月20日は国連が定めた「世界難民の日」です。難民は、人種や宗教、政治的な思想などが理由で自国に暮らすのが難しくなり、他の国に逃れた人たちのことです。日本は難民の受け入れに消極的で、法律上の「難民」と認められていない人が多くいます。ミャンマー人のミミさん（40代）もその一人です。（近藤理恵）

政治不安続くミャンマーからきたミミさん

仮放免では人間らしい生活できない

利用者と話すミミさん（右）。介護の仕事に大変やりがいを感じています＝月、神奈川県横須賀市

猛勉強し介護職員に 在留資格も

ミミさんは、神奈川県横須賀市の介護設（三浦市デイサービスセンター）で、介護士として働いています。ある日の午前、利用者を見守り、声掛けをしていました。

日本語を勉強し話するミミさんですが、チャンスと捉えられる前向きな性格です。それでも試験のかいあって、今年1月に試験に合格しました。同時に「特定技能」という在留資格が認められて、週28時間以内の労働が可能になりました。二種受介護サービスセンターは4月から働いています。

ミミさんは介護士の資格取得を目指します。ミミさんは、ボランティアに取り組み、いつかかかる人たちにも、優しい人になりたいと考えています。

力を発揮し、人のために働きたい

ミミさんはアルベなんみんセンターを通じて知りました。センターの長川さんは、「国籍や宗教などを問わず、困っている人を助けるのが仕事」と話します。

2021年4月、ミミさんは、倉庫にある難民認定の申請中の外国人などを支援する「アルベなんみんセンター」（横須賀市）に通い、日本語の勉強を始めました。日本語を勉強し話するミミさんですが、チャンスと捉えられる前向きな性格です。それでも試験のかいあって、今年1月に試験に合格しました。同時に「特定技能」という在留資格が認められて、週28時間以内の労働が可能になりました。二種受介護サービスセンターは4月から働いています。

今後は介護士の資格取得を目指します。ミミさんは、難民の支援を通じて、ボランティアに取り組み、いつかかかる人たちにも、優しい人になりたいと考えています。

日本人の交流を通じて、人のために働きたいと考えています。

ミミさんは、「特定技能」の在留資格が認められるまでは、「仮放免」でした。「仮放免は働くことも学ぶことも禁止です。健康保険もなく、人間らしい暮らしはできない」とミミさんは振り返ります。

自身の経験から、働くことも学ぶことも、難しい状況にある難民と認められない外国人の支援を目指します。ミミさんは、「人間らしい暮らしはできない」と、仮放免の状況を変えたいと願っている。難民は、「人を助ける仕事がしたい」と話しています。

在留資格ないと働けず、保険にも入れず

入管庁から難民認定されるものとされます。2021年は18人で、在留特別許可が出たのは74人でした。

在留資格がない外国人は、入管からの収容施設に入れられることがあります。2021年は18人が「仮放免」の収容施設に入れられました。

仮放免の外国人は、収入がないため、病気になっても病院にかかることが難しい人が多く、生活は厳しい状況にあります。

同僚からの信頼が厚いミミさん。「人間の尊厳を、私たちがいやすいように接してくれます」と、ミミさんは話します

2022/06　朝日中高生新聞

神奈川新聞　2022年(令和4年)5月6日 金曜日

日本語や就労 課題続々

難民申請中の外国人の受け入れを行っている「アルベなんみんセンター」（鎌倉市十二所）が、新たにウクライナ避難民の夫婦を受け入れた。同施設は鎌倉の静かな山あいに立つ国内最大級の「シェルター」。同施設を運営するNPO法人の有川憲治事務局長(59)は「2人が地域での役割を見つけるお手伝いができれば」と話している。（鈴木崇宏）

鎌倉の施設 避難民受け入れ

同施設は、長年難民支援に関わってきた有川さんによって2年前に開設された。元々は、修道院として使われていた建物で、その名称はイエスス会の総長を務め、広島で被爆者の救援に携わったペドロ・アルペ神父に由来するという。現在はミャンマーやスリランカなど10カ国から逃れてきた13人が身を寄せている。

ウクライナ避難民の受け入れが持ちだされたのは、4月8日のことだった。市内に住む40代のウクライナ人女性から「両親を何とか日本に呼び寄せたい」とSOSの声が上がった。

その両親が住む町は、首都キエフ（キエフ）から約200キロ北上した同国北部のスラブチチ。知人のつてやポーランドの日本大使館の尽力で、70代男性と60代女性夫婦は16日に来日できたという。

ポーランド経由で来た2人は1週間の待機期間を経て、現在は同施設で新たな生活を始めているという。

有川さんは「国や鎌倉市の迅速な対応で、比較的早く受け入れができた」と顔をほころばす。日本語や英語は話せないため、スタッフとは翻訳機を使って会話をしているが、夫婦は「ありがとう」や「いただきます」などの言葉を覚えるなど、日本語の習得にも意欲を見せているという。

2人とも持病を抱えていることから、健康のための散歩はするものの、来日から間もないこともあり疲れると「横になっている」ことも少なくない」（有川さん）という。

戦況が長引き避難生活の長期化が避けられない中、今後は就労支援などが課題となってくる。有川さんによると女性は、チェルノブイリ原発で働く人のためにロボットの仕事をしていたことがあり、飲食店の仕事に関心があるという。有川さんは「これまでの経験を踏まえ、一部屋に引きこもるだけでなく、地域での活躍の場が必要」と訴える。

今回は待政の対応でスムーズな受け入れができたものの、日本の難民認定率は欧米に比べ著しく低いことから有川さんは「難民に対して開かれた社会になってほしい」と、多くの課題があることを指摘している。

❷鎌倉市内に避難してきたウクライナ避難民の夫婦（NPO法人アルペなんみんセンター提供）
❸受け入れたウクライナ避難民について話す有川さん＝同市十二所

2022/05 神奈川新聞

神奈川新聞　第三種郵便物認可

ひとすじ　NPO法人事務局長 有川 憲治

人生の選択をサポート

鎌倉で難民支援に奔走

鎌倉市内にいる難民の方の相談に応じる有川さん＝アルペなんみんセンター、神奈川県鎌倉市十二所

神奈川新聞 2023年1月26日

2023/01 神奈川新聞

3　調査・研究事業

（1）「鎌倉なんみん共生フォーラム」設立に向けた取り組み

地域における難民の受け入れと支援に関する連携をはかるため、市民グループ、社会福祉協議会、社会福祉施設、市議会議員、メディア関係者などが集い、学習会を行った。

基調講演はオンラインでも配信し、全国から 80 名が参加した。最後に、鎌倉なんみん共生フォーラムの設立に向けて意見交換を行った。

日本の難民受け入れ 40 年を振り返る　～インドシナ難民からウクライナ避難民まで～

2022 年 11 月 18 日（木）14：00 ～ 16：00　カトリック雪ノ下教会レベックホール

講師　阿部浩己氏（明治学院大学国際学部教授）

（2）地域通貨「クルッポ」を活用した地域とのつながり

鎌倉市の企業「面白法人カヤック」が運営する地域通貨「クルッポ」の加盟スポットとして、クルッポを使って体験できるプログラムを提供した。また、インスタグラムへの感想や質問を送った方にクルッポを差し上げるなど、双方向のコミュニケーション手段として活用した。

（3）国内外の難民支援団体とのネットワーク

入管法改悪反対集会に参加
2022 年 10 月参議院議員会館

・NPO 法人 移住者と連帯する全国ネットワーク
・NPO 法人 なんみんフォーラムへの参加・連携

国内の難民移民支援ネットワーク団体に参加し、日本における難民の諸問題に関する情報収集および関係団体との連携強化に努めた。

・JCAP Migrants and Refugees Network への参加、連携

アジア地域の移民難民支援団体のネットワークの会議に定期的に参加し、情報交換、共有を行った。2023 年 3 月に日本で連絡会議が行われ、当センターを訪問した参加者に日本の移民・難民が置かれている状況を報告した。

JCAP Migrants and Refugees Network 参加者と一緒に
2023 年 3 月アルペなんみんセンター

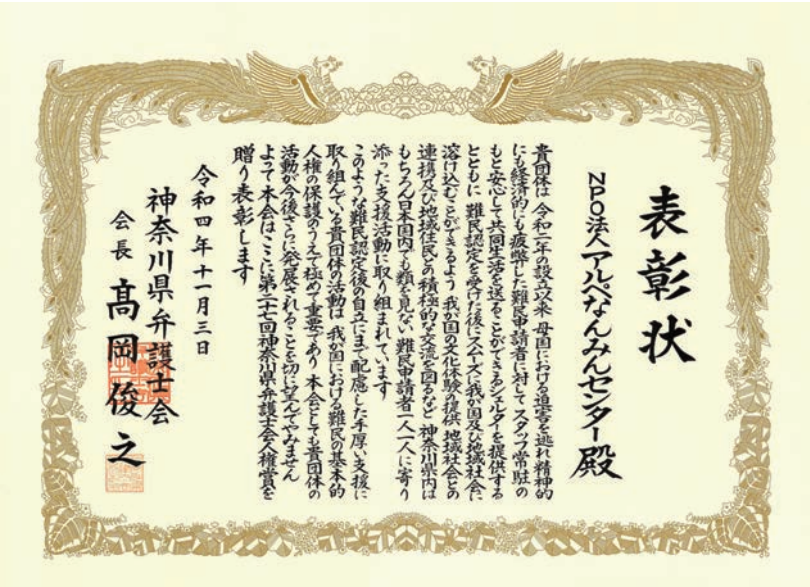
4　その他

（1）アルペのストーリーの書籍化

当センターで取材を行ったノンフィクション作家の佐々涼子さんが、日本の難民・移民に関する本を出版した。センターの様子や難民の想いも紹介された。

ボーダー 移民と難民　佐々 涼子 著
2022 年 11 月 25 日発売　定価：1,800 円 + 税
発行：集英社インターナショナル　発売：集英社

（2）神奈川県弁護士会人権賞を受賞



表彰状

NPO法人アルペなんみんセンター殿

貴団体は令和二年の設立以来母国における迫害を逃れ精神的にも経済的にも疲弊した難民申請者に対してスタッフ常駐のもと安心して共同生活を送ることができるシェルターを提供するとともに難民認定を受けた後にスムーズに我が国及び地域社会に溶け込むことができるよう我が国の文化体験の提供地域社会との連携及び地域住民との積極的な交流を図るなど神奈川県内はもちろん日本国内でも類を見ない難民申請者一人一人に寄り添った支援活動に取り組まれています

このような難民認定後自立にまで配慮した手厚い支援に取り組んでいる貴団体の活動は我が国における難民の基本的人権の保護のうえで極めて重要であり本会としても貴団体の活動が今後さらに発展されることを切に望んでやみません

よって本会はここに第二十七回神奈川県弁護士会人権賞を贈り表彰します

令和四年十一月三日

神奈川県弁護士会
会長　髙岡俊之

（3）様々なご支援のかたち

2022 年度はさらに多くの個人・団体からご支援をいただいた。当センター支援を目的にチャリティコンサートなどのイベントを企画し、収益金をご寄付いただく機会も増えた。

12 月 ASP 湘南主催のクリスマスチャリティコンサート

4 月 鎌倉混声合唱団ムジカおさらぎの定期（チャリティ）演奏会、寄付金の贈呈式

NPO 法人アルペなんみんセンター

2022 年度 活動計算書

（2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日）

（単位：円）

科目名	金額		
Ⅰ　経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	180,000		
賛助会員受取会費	175,000	355,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	43,541,098		
切手等受贈益	314,778		
施設等受入評価益	6,000,000		
ボランティア受入評価益	7,312,788	57,168,664	
3 受取助成金等			
受取助成金	2,945,517	2,945,517	
4 その他収益			
受取利息	391		
雑収益	302,000	302,391	
経常収益計			60,771,572
Ⅱ　経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	7,054,500		
法定福利費	675,668		
福利厚生費	17,471		
ボランティア評価費用	7,312,788		
人件費計	15,060,427		
(2) その他経費			
支援費	5,742,159		
謝金	864,068		
印刷製本費	975,205		
会議費	0		
旅費交通費	249,456		
通信運搬費	1,273,402		
消耗品費	1,542,105		
業務委託費	165,000		
広告宣伝費	959,640		
新聞図書費	9,936		
賃借料	102,170		
保険料	45,160		
研修費	20,800		
水道光熱費	3,524,624		
減価償却費	266,809		
施設維持管理費	2,388,637		
支払手数料	33,730		
施設等評価費用	5,400,000		
その他経費計	23,562,901		
事業費計		38,623,328	

2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	4,425,600		
法定福利費	598,242		
福利厚生費	7,169		
人件費計	5,031,011		
(2) その他経費			
印刷製本費	64,722		
会議費	7,102		
旅費交通費	260,868		
通信運搬費	187,629		
消耗品費	45,335		
業務委託費	242,000		
賃借料	66,000		
諸会費	37,450		
減価償却費	16,609		
租税公課	200		
支払手数料	491,060		
施設等評価費用	600,000		
その他経費計	2,018,975		
管理費計		7,049,986	
経常費用計			45,673,314
当期経常増減額			15,098,258
Ⅲ経常外収益			
1.固定資産売却益		0	
経常外収益計			0
Ⅳ経常外費用			
1.固定資産除却損			
2.雑損失	20	20	
経常外費用計			20
当期正味財産増減額			15,098,238
前期繰越正味財産額			20,757,750
次期繰越正味財産額			35,855,988

2022 年度
貸借対照表

（単位：円）

科　　目	金　額		
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	34, 943, 738		
貯蔵品	495, 589		
前払費用	87		
未収入金	788, 547		
預け金	36, 655		
流動資産合計		36, 264, 616	
2 固定資産			
工具器具備品	441, 385		
固定資産合計		441, 385	
資産合計			36, 706, 001
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	800, 038		
預り金	49, 975		
流動負債合計		850, 013	
負債合計			850, 013
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		20, 757, 750	
当期正味財産増減額		15, 098, 238	
正味財産合計			35, 855, 988
負債及び正味財産合計			36, 706, 001

2022 年度 計算書類の注記

（単位：円）

1. 重要な会計方針　財務諸表の作成は、NPO 法人会計基準（2010 年 7 月 20 日、2017 年 12 月 12 日一部最終改正、NPO 法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法　固定資産は、定率法で償却をしています。

(2) 引当金の計上基準　引当金は計上していません。

(3) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理　施設の提供等の物的サービスの受入れは活動計算書に計上しています。また、計上額の算定方法は「3．施設の提供等の物的サービスの受入の内訳」に記載しています。

(4) ボランティアによる役務の提供　ボランティアによる役務の提供は、「4．活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳」として注記しています。

2．事業費の内訳

科　目		定住支援事業	情報発信事業	調査研究事業	合計
(1) 人件費	給料手当	5,686,500	1,080,000	288,000	7,054,500
	法定福利費	671,564	3,240	864	675,668
	福利厚生費	17,471	0	0	17,471
	ボランティア評価費用	7,312,788			7,312,788
	人件費計	13,688,323	1,083,240	288,864	15,060,427
(2) その他経費	支援費	5,742,159	0	0	5,742,159
	謝金	832,808	0	31,260	864,068
	印刷製本費	0	975,205	0	975,205
	会議費	0	0	0	0
	旅費交通費	234,785	11,236	3,435	249,456
	通信運搬費	12,018	1,261,384	0	1,273,402
	消耗品費	1,094,589	400,511	47,005	1,542,105
	業務委託費	165,000	0	0	165,000
	広告宣伝費	0	959,640	0	959,640
	新聞図書費	0	9,936	0	9,936
	賃借料	102,170	0	0	102,170
	保険料	45,160	0	0	45,160
	研修費	20,800	0	0	20,800
	水道光熱費	3,524,624	0	0	3,524,624
	諸会費	0	0	0	0
	減価償却費	222,457	44,352	0	266,809
	租税公課	0	0	0	0
	施設維持管理費	2,388,637	0	0	2,388,637
	支払手数料	30,210	3,520	0	33,730
	施設等評価費用	5,100,000	300,000		5,400,000
	その他経費計	19,515,417	3,965,784	81,700	23,562,901
経常費用計		**33,203,740**	**5,049,024**	**370,564**	**38,623,328**

3. 施設の提供等の物的サービスの受入れの内訳

内容	金額	算定方法
イエズス会　日本殉教者修道院	6,000,000	50 万円× 12 月換算

4. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

内容		金額	算定方法
定住支援事業	38 個人・団体、延べ 6,828 時間	7,312,788	単価は神奈川県の最低賃金（年度末時 1,071 円）によって算定しています。

5. 使途等が制約された寄付・助成金等の内訳　使途等が制約された寄付・助成金等は以下の通りです。当法人の正味財産は 35,855,988 円ですが、そのうち 158,740 円は、つぎのように使途が特定されています。したがって使途が制約されていない正味財産は 35,697,248 円です。

内容		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備　考
寄付金	フィランソロピーバンク寄付金	520,000	0	520,000	0	難民認定申請者の医療支援とサポート体制の構築のため
助成金	かながわ民際協力基金（ウクライナ支援）	0	2,445,517	2,445,517	0	ウクライナ支援額中 445,517 円は未収助成金
	かながわ民際協力基金（育成事業）	0	500,000	341,260	158,740	
合計		520,000	2,945,517	3,306,777	158,740	

6. 固定資産の増減内訳　固定資産の増減は以下の通りです。

科目		期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産	工具器具備品	852,749	205,200	0	1,057,949	△ 616,564	441,385
合計		852,749	205,200	0	1,057,949	△ 616,564	441,385

7. 借入金の増減内訳　借入金はありません。

8. 役員及びその近親者との取引の内容　役員及びその近親者との取引はありません。

9. その他　ブイヤン緊急支援について　入居者の緊急入院及びリハビリテーションのために、支援者に緊急支援を依頼した。入居者はリハビリテーション後、母国に帰国した。支援者には、緊急支援の残額は、今後他の入居者の医療費に充当することを説明していたことから次の金額を一般会計に繰り入れる。

内容		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備　　考
寄付金	ブイヤン緊急支援		6,171,555	2,519,822	3,651,733	医療費に充当するため一般会計に繰入
合計		0	6,171,555	2,519,822	3,651,733	

2022 年度 財産目録

2023 年 3 月 31 日現在

（単位：円）

科　目			金　額
Ⅰ　資産の部			
1 流動資産	現金	手元現金	238,535
	預金	PayPay 銀行（普通預金）	
		ビジネス営業部	6,002,777
		ビジネス営業部（寄付口）	298,622
		ゆうちょ銀行	
		通常貯金	5,343,168
		郵便振替口座	8,060,285
		PayPay 銀行（定期預金）	
		ビジネス営業部	5,000,000
		ビジネス営業部（寄付口）	10,000,351
	貯蔵品	切手	495,589
	前払費用	労働保険料	87
	未収入金	クレジット寄付金	343,000
		かながわ民際協力基金	445,517
		源泉徴収税過払分	30
	預け金	電話料金（NTT テレホンカード）	36,655
流動資産合計			**36,264,616**
2 固定資産	有形固定資産		
	工具器具備品	パソコン 4 台	154,838
		液晶テレビ	66,528
		生ゴミ処理機	66,067
		冷蔵庫	153,952
	固定資産合計		441,385
資産合計			**36,706,001**
Ⅱ　負債の部			
	未払金	3 月分給与 / 謝金 / 労災保険料	454,653
		3 月分施設管理費ほか	345,385
	預り金	3 月分源泉所得税 / 住民税	37,961
		雇用保険料本人負担分	12,014
負債合計			**850,013**
正味財産			**35,855,988**

NPO 法人アルペなんみんセンター

役員 / 顧問 / 事務局スタッフ

役員　理事７名 / 監事１名　　任期（第３期）：2022 年４月１日～ 2024 年３月 31 日

理事長	榎川 勝也	元国連 UNHCR 協会常務理事 / 事務局長
理事	有川 憲治	特定非営利活動法人移住者と連帯する全国ネットワーク理事
理事	小山 英之	特定非営利活動法人なんみんフォーラム代表理事 / 上智大学教授
理事	杉本 大輔	全国難民弁護団連絡会議 事務局
理事	津田 和加子	元桜の聖母短期大学教授
理事	松浦 由佳子	アルペ小金井センター センター長
理事	山本 菜奈	特定非営利活動法人 WELgee(ウェルジー)　理事
監事	赤瀬川 由乃	民生委員・児童委員（鎌倉市）

（50 音順、敬称略）

顧問弁護士　駒井 知会　マイルストーン総合法律事務所

顧問税理士　平石 博俊　平石博俊税理士事務所 所長

事務局スタッフ　10 名　専従５名（有給３名、無給２名）、非専従５名（有給５名）

事務局長	有川 憲治	統括（宅地建物取引士、賃貸不動産経営管理士、空き家課題トータルコンサルタント）
鎌倉センター長	津田 和加子	生活支援 / 調理担当（管理栄養士）
小金井センター長	松浦 由佳子	プログラムコーディネーター（日本評価学会認定評価士）
	石川 奈津子	定住支援 / 相談員（キャリアコンサルタント / シニア産業カウンセラー）
	漆原 比呂志	地域連携コーディネーター
	金山 重之	法人事務担当
	長島 明子	生活支援 / 相談員（社会福祉士 / 精神保健福祉士 / 公認心理士）
	ビリク イリナ	定住支援 / ウクライナ語通訳
	山﨑 恵	法人事務担当
	レニー トレンティーノ	生活支援 / カウンセリング担当

（50 音順、敬称略）